令和７年度第３回
寝屋川市子ども読書活動推進計画策定委員会　会議報告

○開催日時　　令和７年 10 月 28 日（火）　午後３時 00 分より
○開催場所　　寝屋川市役所議会棟　５階　第二委員会室
○所要時間　　15：00～16：00
○出席者（委員）　15 名中　15 名出席
尾﨑（委員長）・亀井（副委員長）・川邊、蔵本・宇佐美
九條・浅田・竹中・勝浦・木村・岡・坂本・古田・
岡元・山本
（事務局）柴田中央図書館副係長・西岡・塩川（３名）
（傍聴者）　なし

○案件
１.第４次寝屋川市子ども読書活動推進計画（素案）について
２.その他

○資料
１.次第
２.第４次寝屋川市子ども読書活動推進計画（素案）
３.意見交換のテーマ

案件１　第４次寝屋川市子ども読書活動推進計画（素案）

前回策定委員会以降の主な変更部分についての説明

| | |
|---|---|
| 第２章　これまでの取組<br>１　寝屋川市子ども読書活動推進計画の取組状況について（修正等なし） | |
| ２　これまでの取組 | |
| （第１節） | 家庭・地域における推進 |
| ４頁 | （家庭・地域における推進）<br>主な取組（1）<br>◇児童サービスの講座の実績を追記 |
| ６頁 | （図書館における推進）<br>主な取組（1）<br>◇おとどけ books 事業の実績を追記 |
| （第２節） | 幼稚園・保育所園・認定こども園・子育て支援センター・学校等における推進 |
| ９頁 | （幼稚園・保育所園・認定こども園・子育て支援センター等）<br>主な取組（1）<br>◇図書館探検事業の実績を追記 |
| 10 頁 | （学校）<br>主な取組（1）<br>◇学校での読書活動の具体的な取組を追記 |
| （第３節） | 障害のある子どもや外国人の子ども等への取組 |
| | 検証(3)（4）(5)<br>◇記載内容の文言整理 |
| 第３章　第４次寝屋川市子ども読書活動推進計画<br>１　計画策定にあたって<br>（1）趣旨　※新たに追記 | |
| （2）子どもの読書環境を取り巻く状況、以降について<br>◇記載内容の文言整理を行った | |

案件２　その他：意見交換会『子どもの読書量を増やすためには』

| 就学前 |
| --- |
| （概要）<br>就学前の読書活動としては、乳幼児健診時に絵本を贈呈する絵本贈呈事業、各図書館等での絵本の読み聞かせ、幼稚園・保育所等での子どもや親に対する読書活動、図書館での各種講座の開催など、図書館・各幼稚園・保育所・認定こども園などで積極的に取り組んでいます。<br>就学前における重要なこととしては、『新しく開館するこども図書館ともに、どのように読書活動を推進していくか』、また、『就学前の取組を小学校での読書活動にどのようにつなぐのか』といったことが、重要であると考えております。 |
| （意見等）<br>①市民ニーズ・課題等現状を把握し、望ましい理想像・あるべき姿を決定する必要があると考える。<br>②寝屋川市では子どもの読書量が減ってきており、タブレット等の影響は考えられる。本を読む子どもの成績が上がってきている状況である。<br>③望ましい姿について、数値化できれば良いと思われる。<br><br>Q1.子どもはどれぐらい本を読めば良いか？<br>→活字は小学校にあがったら<br>乳幼児・小学生は読んでもらうことが楽しい<br>A1. 就学前は読み聞かせや絵本で絵を見せる段階。<br>乳幼児に対しては大人の働きかけが大きく影響する<br>大人の育成が必要となる<br><br>Q2.読書好きにするには、乳幼児期に絵本好きにすることが大切なため、絵本に触れる機会をどんどん増やしているが、これ以上、取り組めることはどのようなことか。<br>→電車等で保護者がタブレットを見せているが、寝屋川市も考えるべきか<br>→乳幼児期は人間の生の声を耳に届けることが大事 |

→生身の大切さは理解するが、親世代に対して、今後はデジタル機器を使用した取り組みを考える必要があるのではないか。乳幼児期は周りの人間が積極的に関わることが重要。

→デジタル機器もあるものなので、対応している。小学校では一人ずつ配布されているが、幼稚園等にも一人ずつへの配布を希望する

→ブランチでは乳幼児は読み聞かせ等を楽しんでくれる。小学生はタブレットを持っているが、大人が声をかけると読み聞かせを受け入れる状況がある。

④おはなし会を小学生は楽しみにしている。ライブ感がある。子どもは自分で本をめくることが好き。但し、タブレットは存在しているので活用については検討していくべきことだと考える。

⑤おはなし会の中学校での実施はない。カリキュラムとしてどこで組み込むかの検討は必要だが、情緒面等では取り入れたい。

・中学生へのおはなし会は白けると思っていたが、よみものよりも喰いつきが良かった。

⑥幼稚園で大人へのよみきかせを行っている。大人向けの本や読み方に工夫する。子どもに伝えるために、大人も楽しめるような取り組みをし、大人も楽しんでいる。絵本は大人のためのものでもあると認識している。

・絵本は、大人にとっては総合美術。乳幼児にとっては⑴聞く⑵話す⑶読める、を獲得するもの。中学生にとっては⑴言葉⑵聞く力⑶書く⑷読む、を段階的に形成するものという側面がある。また、乳幼児の保護者に読み聞かせをすることは良いこと。中学生にとっても、耳から入れていくことは大切なこと。

Q3.絵本に触れることや読み聞かせの機会を増やしていくことは可能か

A3.読み聞かせの大事さは認識しており、絵本の贈呈事業を行っている。子どもを対象とした施設で、親に読み聞かせの大切さを伝える取り組みの実施を検討している。

⑦幼稚園や学校等に所属していない人へ届けることを考える必要がある。小さい子どもが自力では到達できないので、まわりの働きかけが大事になってくる。

⑧環境設定は必要なこと。保育所には絵本が少なく、図書館や学校図書館に行く

と子ども達がびっくりする。本に触れあえる環境ができれば、もっと子どもが興味・関心を持てるのではないか。

→北小学校と北幼稚園には移動図書館車が行く。もっとたくさんの学校に行ければ良いので、今後も調整していく。また、「としょかん探検」への参加で図書館を知ってもらいたい。

→幼稚園では、図書館の団体貸出で 200 冊を借りるのが場所的に限界。

母が就労していて、図書館に行けない、知らない子どもは、図書館や学校図書館の環境にびっくりし、感激する。図書館に行くことが難しいので、近くの学校と交流できれば良い。

⑨「絵の本ひろば」を令和６年度は支援学校と北小学校の２か所で行った（図書館事業として、ボランティア団体が協力して実施）。ボランティアとしては、複数回開催している。図書館が主体的に、ボランティアの発掘をする必要があるのではないか。

また、読み手を養成する大人対象の「読み聞かせ講座」に参加者がおり、参加者自身も楽しんで、聞いている人も楽しんでいる。読み聞かせに興味を持っている人がいるので、図書館は、読み聞かせをする場所の発掘する必要があるのではないか。

学齢期

（概要：小学校低学年）

小学校中学年・高学年になると、学校の宿題や習い事などで時間が取れず、図書館に行く余裕がないことがあります。また、興味が多様化し、読書以外の活動に興味が移りやすい年齢とされています。そのため、低学年の頃に十分な読書習慣が形成されなかった場合は、中学年・高学年になっても図書館をあまり利用しない状況にあるとされています。

（概要：小学校中高学年）

小学校の中学年と高学年は、子どもたちが自分の意見を持ち、社会的な関係を築いていく大切な時期です。読書活動は、学びや成長において重要な役割を果たすため、学校や家庭、図書館が協力して支援することが重要であると考えております。

（意見等）

①小学校現場で、ボランティア人材は少ないと聞いており、地域まかせで良いのか懸念している。学校司書は、学校図書館を魅力的な場所にすることが大きな役割か。学校図書館を長く開けることで職員が増えると良い。中学校区に１人配置してもらえれば、小中学校の円滑な連携が図れるのではないか。

※学校図書館司書９人：１人が４つの学校を担当している

→学校図書館司書を中学校区毎、12 人の配置できないか

②地域ボランティアをどのように見つけるか

→絵本の読み聞かせ入門講座の参加者は熱心に受講しているので、練習を重ねて、幼稚園・保育所・学校で活躍できれば良いのではないか。図書館にはボランティアと学校等の間を繋ぐ役割をしてもらいたい。

→図書館から団体を紹介するところまでは到達している。

→講座の開催場所が中央図書館・東図書館だと参加者区域が限られるので、開催場所を学校として、図書館で養成してもらいたい。

学齢期（中学生）

（概要）

中学生は、学業や部活動、スマートフォンやゲームなどのデジタルメディアに多くの時間を割く傾向にあり、小学生の時に比べて読書時間が減少しています。そのため、小学校の頃に読書習慣が確立されていないと、中学生になってからも自発的な読書が難しくなる傾向にあるとされています。

一方で読書活動は、語彙力の増加や読解力の強化、コミュニケーション能力の向上、興味・関心の拡大、学習意欲の向上など、様々な効果が期待でき、中学生にとって読書活動は非常に重要であり、学習や成長の基盤を築くための不可欠な要素となります。

各学校においては、ブックトークなどの読書推進のイベントや図書委員会活動等の取組により、読書活動に取り組んでいただいておりますが、より一層、読書活動を推進していく必要があると考えております。

（意見等）

①中学校現場

・中学生の読む体力は下がっている

・自分で読んだ本のポップ作りをする

・ビブリオバトルに参加すること

→１冊の本を読み込む必要がある

・朝読を 10～15 分実施

・おとどけ Books で借りる生徒の固定化

②SNS が発達してしまっている。読書面ではマイナスという捉え方をしているが、使い方次第ではないか。

Q1.おとどけ Books や 100 冊ぐるぐるの利用方法はどうのようか。

A1.おとどけ Books は個人での利用、100 冊ぐるぐるは学校図書館司書と図書委員が活用している。

②100 冊ぐるぐるは職員室前に置くと、人気がありすぐに借りに来る。

③ソファやマンガ等集まりやすい雰囲気で、第十中学校は学校図書館が充実していた印象がある。学校図書館司書がいて、図書館が開いている時間が長いことが大事なこと。